

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078900216		
法人名	有限会社 裕和		
事業所名	グループホーム まほろば		
所在地 (電話番号)	福岡県柳川市三橋町正行351 (電話) 0944-74-0081		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成22年1月22日	評価確定日	平成22年3月3日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 9人, 非常勤 2人, 常勤換算 5人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,165 円	

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新船小屋病院、村石循環器科、中川歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然の多い地域の中に広々と建つホームは、日光をいっぱい取り込んだ明るい建物で居心地が良い。事業主が、介護の仕事を通して「地域で困っている高齢者をどうにかして手助けしたい」と志高く立ち上げたホームで、その意の通り、職員は皆、笑顔いっぱいに、生き活きと仕事に努め、入居している高齢者も、家庭にいるような穏やかでにこやかな表情で生活されている。地域との交流を積極的に行い、お宮掃除やお地藏様の花活けなど小さな奉仕も忘れず行っている。そのお陰で近隣からも周知いただき、協力も得ることが出来ている。地域に根付いたホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題である、職員研修の計画作成や、権利擁護の勉強、評価に対する意義の検討などに対し、職員全体で努力された軌跡が覗える。更に具体的に改善する為に改善計画シートを作成することを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は全員で記入されている。自分たちの今の状況を考えながら記入していくことで、介護は作業ではなく、その裏に大切な意義があることへの理解につながり、職員一人ひとりが何を目指して介護を行っていくべきか、大きな気づきとなっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は二ヶ月に一度きちんと行われており、区長、民生委員、市の職員、消防団員などが集まっている。ホームの利用状況や行事の報告のほか、消防団員とともに緊急時の対応について度々話されることで、具体的な支援の指針が出来、地域の中で安心した生活を送れることにつながっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族には利用料の支払いのために月に1度は必ずホームに来ていただくようにしており、来訪時にはスタッフが時間を取り、利用者の近況をお話し、家族の思いに対しても耳を傾けている。ホームに対する苦情等には意見箱を玄関に設置しているほか、第三者的立場のメンバーを含めた苦情担当者を決めて対応されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>お宮やお寺の掃除、地藏様の花活け、子供たちへの下校時の挨拶運動など、利用者側からの希望もあり、地域へ溶け込もうとする積極的な姿勢が強く感じられる。ホームの行事も地域住民へ呼びかけ、たくさんの参加をいただいている。ホームの存在を地域に周知することで、無断で外へ出た利用者を、近所の方が見つけて連れて帰ってくださるなど、事故の予防にもつながっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「楽しく自分らしく」という理念の通り、利用者、職員とも笑顔いっぱい過ごされている。倫理規定の中には、「地域での社会性を重視し、より自立できるように支援すること」という文言が含まれており、地域密着型サービスとしての役割の理解も深い。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と倫理規定は玄関に掲げられ、毎朝職員全体で唱和されている。勉強会での話題として取り上げ、職員全体の確認がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの敬老会や夏祭りなどに近所の人をお誘いしたり、近くの神社やお地藏さんの掃除を行ったり、老人会のカラオケに参加したりと、日ごろから地域との交流が図られている。利用者が子供たちの下校時間に表に出て、挨拶運動をされ、防犯にもひと役買っている。台風の際、近所の独居女性がホームに避難してきた実績もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での結果を真摯に受け止め、職員全体で改善に向けて対応された経過が見られる。今回の自己評価は全員で記入することで、ケアに対する留意点などあらためて職員の気づきに繋がっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、区長、民生委員、老人会長、市職員、地域の消防団員を招き、行事の呼びかけや運営状況、評価についての報告等の会議が行なわれ、記録も残されている。参加者に消防団員も含まれていることで、日ごろから施設の安全に則した、地域との関わりが深められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの施設訪問があったり、管理者が市役所に度々足を運ぶなど、市への相談が頻回に行なわれている。現在スプリングクラーの設置について話し合いをつめている。施設の広報誌を市役所に置いている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	職員は勉強会にて成年後見人制度について学んでいるが、現在利用している利用者はいない。勉強会后、職員や利用者、家族がこれについて気軽に見られるような資料の設置がなされていない。		今後必要になってくる方のために、目に付くところにパンフレット等を設置することが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族には、利用料の支払いを兼ねて必ず月に一度はホームへ来訪して頂いている。その際に、スタッフが時間を設け、利用者の近況をお話している。預かっているお金については、一人ひとり出納帳にまとめ、家族に確認してもらった後にサインをいただいている。緊急の報告は電話にて対応している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているほか、苦情担当を決めて対応している。担当者には、以前勤務していたスタッフの配偶者という第三者的な立場の方が置かれ、公平な判断が期待できる。年1回の家族会の際も、意見や要望を聞き取る姿勢で臨まれている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同系列のグループホームとの人員の異動が時々行われている。利用者の理解度によって、異動時の対応を考慮している。スタッフ間の引継ぎには十分に時間をかける配慮もなされている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用時の制限は設けておらず、実際職員は男性も女性も、若い方も年配の方も様々居られ、それぞれの得意分野を活かしたケアがなされている。職員皆、表情豊かに生き生きと生きがいを持って仕事に当たられている様子が見うけられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者に対する人権学習を中心に、ホーム内での学習が行なわれている。また、地域で人権学習が開催される際にはホームからも参加している。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等の案内があれば、職員に周知し参加を促し、また、事業所内での学習会も定期的に行っている。しかし、年間の研修計画は作成されておらず、受身的な態勢での学習である。介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得の希望者には、時間や資金面のバックアップがなされ、実際資格取得をされた職員も居り、高く評価できる。		研修に対しては、必要なことや段階に応じた計画を作成し実施していくことで職員の更なる質の向上を図ることが望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、地域での学習会に参加するなど積極的な姿勢が見られ、同業者との交流が図られている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	食事代のみで体験入所を行ったり、事前に自宅や施設に出向いたりして顔なじみの関係が出来た上での入居がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歴史に詳しい利用者や、大河ドラマを解説していただいたり、お料理が得意な利用者や干し柿や漬物の作り方を指導いただくなど、一緒に過ごす時間の中で職員と利用者がともに高めあいながら生活する関係が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話ができる方からは直接希望を聞きとり、表出困難な利用者には表情や行動で察したり生活歴を参考にしたりするなど、一人ひとりの意向を把握していく姿勢が見られる。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画は職員全員で話し合い、本人や家族の意見を文書でいただき、それを取り込んできちんと作成されているが、目標が支援者側のケアに関するものになっており、利用者のできる事や意向の目標になっていない。		介護計画の目標については利用者のできる事や意向を表したものをたて、利用者側から検討した内容で記されることを期待する。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は三ヶ月に一度の見直しと、六ヶ月に一度の作成が定期的に行なわれている。家族の意見や職員の意見も盛り込み作成されているが、目標がケア内容に関することとなっており、モニタリングが出来ない状態である。		目標を利用者本位に作成し、その目標達成度をモニタリングで定期的に検討されることを期待する。
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に個々に対応する姿勢がある。囲碁教室に通うことを希望される方を送迎したり、行きつけの店にお連れしたりしている。旅行など職員だけでは対応できないことは家族に協力をお願いし、実現に向けて努力している。家族が泊ることが出来るスペースも確保している。入院時は様子を見に行き、洗濯物もホームで引き取り行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医を継続されている方がほとんどである。受診が困難な利用者には往診も受け入れられている。定期的な受診は職員で対応し、突発的な受診には家族の協力をいただき行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りを行っており、2名をお見送りした実績がある。入居時にこのホームで看取りを行なうことが出来る旨を家族に説明しておき、実際に重度化した場合は、最初に家族の意向を確認し、ホームでの見取りを希望されれば往診の出来る主治医と相談しながら対応している。看取りに対する家族との同意書も交わしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者のトイレの誘導や出来ないことに対し、さりげない支援を行い、プライバシーに配慮した対応がなされている。ホームの所々に利用者の写真が貼られているが、個人情報取り扱いの契約に、写真掲示に関する文言が含まれていない。事務所の目に付くところに、利用者及び家族の名簿が貼られているが、これは事業所更新の際の広域連合からの指導によるものである。		個人情報保護の観点からも個人情報取り扱いについての契約に、写真掲載、掲示に関しての文言を入れられることが望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事など大体の流れに沿いながら、無理強いはせず、個人の体調や習慣に合わせた対応がなされている。散歩や買い物の希望に応じたり、地域の子供たちとのふれあいの希望には事前に学校に報告した上、ホーム前で挨拶運動を行って対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る力を活用し盛り付けや片付けを職員と一緒にやっている。職員も同じメニューを同じテーブルで食べ、家庭的な雰囲気の中で食事時間を過ごされている。テレビなどの雑音もなく、集中して食事が摂れる環境である。また、ホームの庭で採れた野菜が食卓に上り食事を楽しむことが出来ている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は火・木・土曜日の週3日に決めているが、希望時はその他の曜日でも対応している。お風呂に入りたがらない利用者には話をして和んで頂き、誘導したり、一人で入るように促し、見守りで対応したりするなど、工夫を重ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、畑仕事、俳句、パッチワーク、散歩などいろいろな趣味や楽しみを設け、張り合いのある生活を提供している。洗濯物たたみや調理の中の軽作業をお任せしたり、食事前の挨拶を利用者にお願いするなど役割も工夫して任されている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、花見などよく出かけており、その楽しい様子の写真もたくさん飾られている。買い物希望する利用者にはスーパーへ車でお連れする等、日頃から外出の援助を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかけられておらず、職員は絶えず目視で人数確認を行っている。二年前に窓から出かけた利用者が居られたが、事前に近所や警察、消防に周知していたため、無事に保護され連れて帰っていただいたことがある。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の指導の下、近所にも声をかけて訓練がなされている。通報や心肺蘇生の訓練も行っている。避難場所も職員全体で統一されている。台風情報に合わせて非常食を準備するが、常時ではない。夜間想定避難訓練はまだ行われていない。		夜間の火災を想定し、応援を呼び出す方法や、少人数で行う避難誘導の方法を確認する取り組みに期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は日々の記録に残されている。水分制限のある利用者については水分摂取量の記録も残すが、現在は該当する方が居られない。事業主が栄養士でメニューに対する栄養バランスの指導を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり	天窓から明るい日差しが注ぎ、きちんと掃除された空間は気になる匂いもなく、空調も程よく調整されている。飾られた花が季節を知らせ、居心地の良い空間作りがなされている。		
32	83	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
		居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には、利用者が持ち込んだ家具が置かれ、家庭的な雰囲気である。趣味の作品や写真が飾られて、利用者の個性があふれている。		
33	85	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			